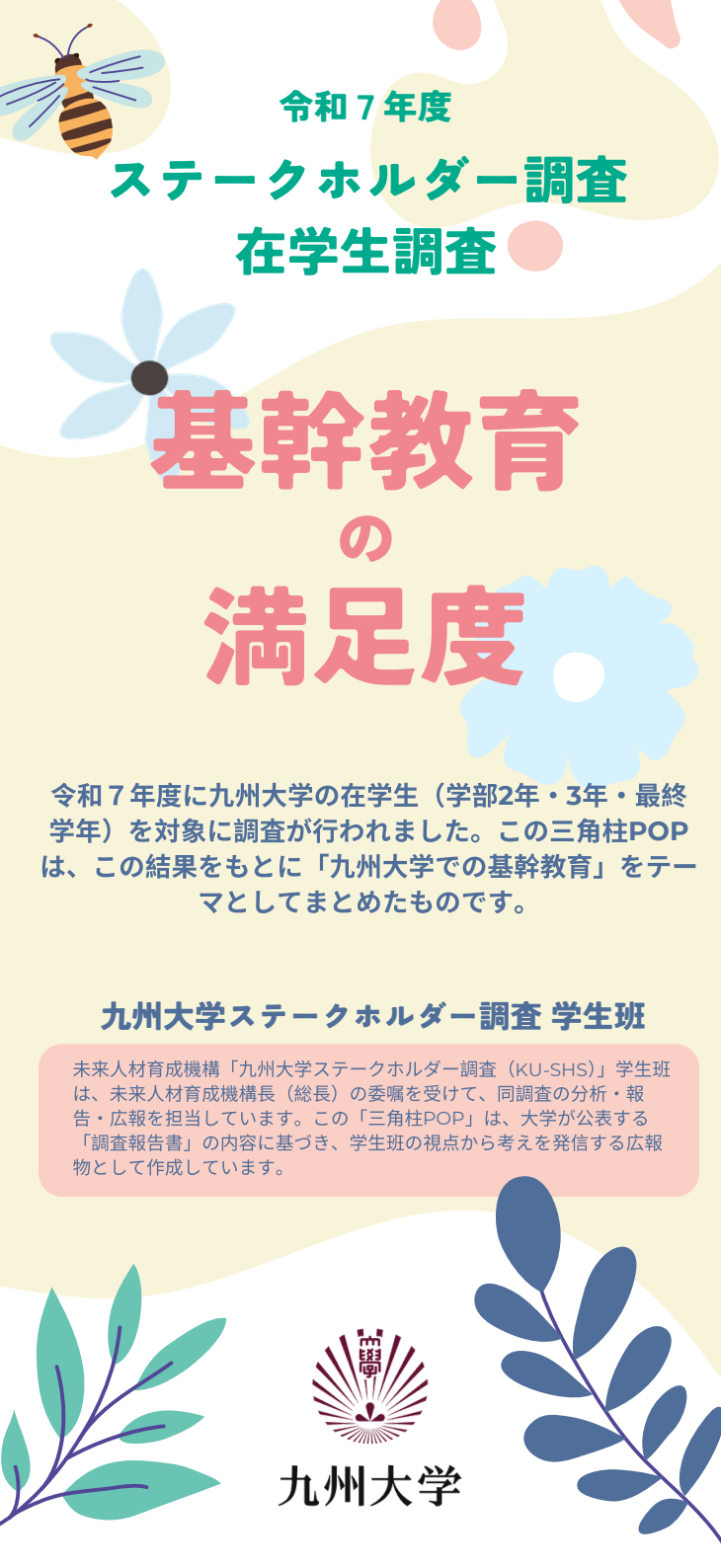




令和7年度

ステークホルダー調査 在学生調査

基幹教育 の 満足度

令和7年度に九州大学の在学生（学部2年・3年・最終学年）を対象に調査が行われました。この三角柱POPは、この結果をもとに「九州大学での基幹教育」をテーマとしてまとめたものです。

九州大学ステークホルダー調査 学生班

未来人材育成機構「九州大学ステークホルダー調査（KU-SHS）」学生班は、未来人材育成機構長（総長）の委嘱を受けて、同調査の分析・報告・広報を担当しています。この「三角柱POP」は、大学が公表する「調査報告書」の内容に基づき、学生班の視点から考えを発信する広報物として作成しています。



九州大学

基幹教育が目指す学び

基幹教育は、学び続ける力や行動力を持つ人材を専攻教育と連携して育成することを目的として設立された教育プログラムです。主な目的は以下の通りです。

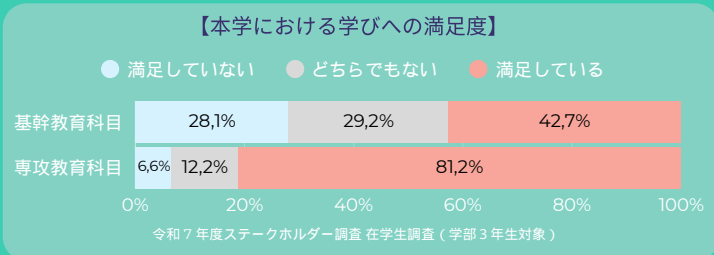
- ・深い専門性、豊かな教養へとつながる知識、技能
- ・課題を発見し、創造的・批判的に吟味検討する主体的な学び
- ・多様な知を交流し、差異を認め合う共感性やコミュニケーション能力

出典：九州大学基幹教育院『基幹教育履修要項-令和7（2025）年度入学者用』（1頁）
https://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/campus_life/pdf/2025youkou.pdf

このように、基幹教育は所属学部の垣根を越えて幅広い知識を身につけ、創造的・批判的に課題を発見するための概念的な教養を培う場です。

九大生が見た基幹教育

R7在学生調査から、学生は基幹教育の目的である「幅広い学問分野の理解」や「他者と協働する力」は一定程度身についたと実感していることが分かりました。その一方で、基幹教育科目の満足度は、専攻教育科目と比べて低くなっています。



学生が考える満足度の低さの理由

基幹教育の目的は明快であるとともに、他学部の学生と交流できたり、対話型の授業や実践的な授業が多かったり、基幹教育ならではの楽しさもあります。それにもかかわらず、なぜ、このように満足度が低いのでしょうか。私たちは、自由記述欄を参照しながら、その理由を考えてみました。

① 学生の期待と基幹教育の理念にギャップがある

学生は、大学を専門知識を習得する場として捉える傾向があります。それに対して、基幹教育は専門分野を越えた幅広い学びや課題発見力の育成を目的としており、両者の間には一定のギャップが存在します。例えば、「大学での学びが何かわからなくなるときがある。大学での学びとは何かについて考えを共有する場があればいいと思う」（2年生）といった指摘がありました。

② 学生の主体性や履修の選択自由度を尊重してほしい

基幹教育の基礎科目は、必ずしも学生が興味を持っている内容ではないにもかかわらず必修の場合が多く、選択の余地がありません。この選択自由度の低さが「学ぶ意欲」を損ない、「単位を取るため」だけの履修行動を招いているのではないか、という指摘がありました（3年生）。

③ 実践的な学びを増やしてほしい

知識を実践的に活用できる学習機会を増やしてほしいと考える学生は少なくないのではないのでしょうか。例えば、特に英語の学びについて「基幹教育から論文レベルの英語を読み書きし、それについてディスカッションする機会がもっと増えればいい」（4年生）といった声が聞かれました。

学生班が考える基幹教育のこれから

学生が基幹教育の価値を実感できるようにするためにどうすればよいか。私たちは、次の通り提案したいと考えます。

① 基幹教育の意義を早期に実感できるようにする

基幹教育セミナー、課題発見科目、学術アプローチ科目は基幹教育の目的を体現する科目です。これらの科目を早期に履修できるようにすることで、基幹教育の意義を実感できるようになるのではないのでしょうか。

② 学問への入り口を広げる

総合科目の多くは、実践的な内容を扱い、社会とのつながりを理解しながら主体的に学びに取り組むことを促してくれます。こうした総合科目もディシプリン科目に位置づけるなど、履修の選択自由度を高めることで、学問への入り口を広げられないでしょうか。その一方で、例えば、第一・第二外国語科目について、大学院進学や就職活動で重視されている資格試験で一定の成績を得た場合には、代替的に単位認定したり単位取得を免除したりする方法で、履修の選択自由度を高めることもできます。そうすることで、学生の主体的な学びが促されと考えます。

③ 実践的な学びの機会を増やす

実践的な内容を含む総合科目の多くは、人気が高く抽選となるため、落選する場合もあります。実践的な学びの機会をより拡充するとともに、落選してしまった学生には代替教材を提供するなど、関心分野の学びを継続できる仕組みづくりが求められます。

みなさんの視点で、基幹教育を改善するアイデアがあれば、ぜひステークホルダー調査で教えてください！

ステークホルダー調査とは

九州大学はステークホルダーに対して調査を行っています。この在学生調査もそのうちの一つで、学生の学びの実態の経年変化を分析して、成長実感を把握しています。調査の結果はデータとして分析され報告書にまとめられています。それだけでなく、調査結果を学生目線でまとめたニュースレターも作成しています。



回答回収率 5%未満！

これらの資料は大学が教育改善を検討するための資料としても使われます。そのため、この調査への協力は九州大学の改善につながります。それにもかかわらず、この在学生調査の回答回収率は5%未満にとどまっています。九州大学をよりよくしていくためには、学生の視点が不可欠です。調査へのご協力をよろしくお願いします。

在学生に役立つ情報も

ステークホルダー調査では、在学生だけでなく、卒業・修了後3年目の社会人（卒業・修了後10年目調査も計画中）、九大の合同企業説明会等に登録した企業などに対しても調査を行っています。学生生活や就職を考えるうえで参考になるデータや貴重な意見もあるかもしれません。ぜひ一度目を通してみてはいかがでしょうか。

未来人材育成機構HPステークホルダー調査はこちらからどうぞ

九州大学の教育の質向上のためぜひ皆さまのご意見をお聞かせください。
九州大学未来人材育成機構メールアドレス
innovation@ueii.kyushu-u.ac.jp

